



6
月

パストラル尼崎

水
無
月

No.156.2025(R7)年5月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎

尼崎市潮江1丁目10-2

Tel.06-6493-0521

Fax.06-6493-0301

発行責任者：竹田 恵之

『日本国宝展』

大阪・関西万博の陰に隠れてはいますが、実は“凄い”展覧会が関西で開催されているのをご存知でしょうか？ 万博の記念展として位置付けられ、まるで全国の国宝が関西に一度に集結したような国宝展が今、「京都国立博物館」「奈良国立博物館」「大阪市立美術館」の三館で開催されています。今回はパストラル尼崎からほど近い「大阪市立美術館」の国宝展について（稚拙な）体験記と共にご紹介します。大阪市立美術館の今回のキャッチコピーは、「教科書で見たあの国宝が一堂に！」…これって美術に興味のない人間や若者にも刺さるワードですが、今回、まんまと乗せられ小学生並みの知識を引っさげ鑑賞する事に…汗

5月6日、最寄駅のひとつ「動物園前駅」を降り「ジャンジャン横丁」を“おっかなビックリ”で抜けるとアカデミックな空間、リニューアルしたての「大阪市立美術館」が神々しく出現！既に長蛇の列ですが、時間予約をしていたせいか長時間待つ事なく会場へ…期間中、130点もの国宝が集結するという今回の国宝展。会場に一步踏み入ると、まさに教科書に載っている超有名な国宝が目飛び込んできます。「ホントだ！教科書に載ってた●●だ！」…絵画、彫刻、工芸、書籍などジャンルも多岐にわたり惜しげもなく展示された国宝の数々。そのどれもが見るものを圧倒するような存在感です。まるで画面の中の大スターたちを間近に見られる！といった感覚でしょうか？ 日程によって作品の入替があるようですが、展示の金印（漢委奴國王）や火焰型土器、鑑真和上坐像、燕子花図屏風、唐獅子図屏風、信貴山縁起絵巻、古今和歌集など、もう終了した国宝もありますが、6月15日迄、まだまだ興奮は続きそうです。

写真の火焰型土器は5000年前のものだそうです。その保存の素晴らしさにも目を見張ります。何世紀も前の作品のどれもが眩いばかりの輝きを放っているのです。美術館の学芸員の練られた魅せ方もあるのでしょうか。金彩などライトの当て方ひとつで作品も大きく変わるそうですが、とにかく美しい！すべてが瑞々しいのです。大阪市立美術館館長の内藤栄氏は、パストラル尼崎で正倉院展をテーマにご講演頂いた方ですが、次のように語っておられました。「日本文化は絵巻にしても仏像にしても発掘されたものではなく、全て地上に残って来たものです。つまり先人たちが一生懸命未来に引き継ごうと思いついてきたものなのです」…国の宝を未来に残そうと修理などを重ね大切に保存してきた先人たちの思いに報いるべく勉強しなければと、帰り際に重～い図録集を購入した次第です。いや～大満足の国宝展でした！（F）



◆6月の歳時記◆

『アジサイの歴史』

今、店頭には色鮮やかな珍しいアジサイがたくさん出回っていますね。でもこのアジサイ、日本原産でありながら昔はまったく人気がありませんでした。その名が登場するのは奈良時代の万葉集ですが登場回数もたったの2首。平安時代を代表する『源氏物語』『枕草子』にも登場せず、世界に誇れる園芸文化が花開いていた江戸時代にも人気がなかったようです。アジサイは簡単に増やせる為、植木屋が売りたいがなかったのだとか。そして明治、大正時代になるとアジサイは中国からロンドンへ。その後、フランスで育種が始まりました。それが日本に逆輸入されます。戦後は観光資源として寺院などにアジサイが植えられますが、これはアジサイが死者に手向ける花と考えられていた事に由来するそう。米国に渡った品種たちは戦後にその技術とともに日本に伝わり、「西洋アジサイ」や「ハイドラシニア」と呼ばれます。そして昭和59年、日本のハイドラシニアの生産増加の端緒を開いた品種が「ミセスクミコ」。この温かな桃色で巨大な花房をつける手まり咲きで一世を風靡し、その後はご存知のように品種改良も盛んとなり人気の花となったようです。



令和7年度

パストラルシニア大学

毎回、平均50名の方々が熱心に受講する『パストラルシニア大学』、いよいよ今月から新年度が始まります。今年度も多彩な講師をお迎えし、充実した内容でお届けします。新たな知識、発見があるかもしれませんよ。学生証を忘れずに！

第1回

「睡眠薬、鎮痛剤、下剤」

・日時：6月20日（金）14時

日本調剤薬局(株)次長
薬剤師 山内 昭宏 氏

高齢者に馴染みのあるお薬、睡眠薬、鎮痛剤、下剤ですが、「常用していいの？」「どれだけなら飲んで大丈夫？」「半分にして飲んでるけど」等、日頃の疑問をこの機会に薬剤師さんに聞いてみましょう。